

# 1 市町名 小鹿野町

## 2 課題をもとにした仮説

- ・県学力・学習状況調査の結果を分析し、課題となる学習内容を明らかにし、児童生徒の授業改善に生かせば、より多くの児童生徒の学力を伸ばすことができるであろう。
- ・非認知能力や学習方略で改善の見られた学級について分析し、改善に結びついた指導方法を町全体で共有すれば、学級経営が充実し、学力向上に結びつくであろう。
- ・全学調の結果を分析し、学習内容及び学習過程の工夫を明らかにし、授業改善を図れば、児童生徒の学力向上につながるであろう。

## 3 効果的な取組

### (1) 小鹿野町教育委員会における主な取組

- ・小鹿野町学力向上プロジェクトの徹底を図り、「小鹿野ベース」による教師の指導力向上、児童生徒の興味・関心に基づく「自学ノート」による主体的な学びの習得、家庭の協力を促す「家庭教育宣言」による親子共学の推進の3点を基軸に、児童生徒に主体的に学習を進める態度を育成し、学力向上へつなげる取組を行う。

#### ①具体的な取組

○子供たちの主体的な学びの実現を目指した「小鹿野町学力向上プロジェクト」の推進



○「小鹿野ベース」に基づく授業改善

- ・子供たちに主体的な学習態度を身に付けることを目指し、学力向上プロジェクトを推進。日々の授業を充実させるため、町内全ての学校（学級で）共通の視点、スタイルに基づく授業改善（小鹿野ベースの授業）に取り組む。
- ・「わかるから楽しい」から「楽しいからわかる」へとロジックを転換し、協働を通じた主体性の育成と学びの継続・深化を目指して、具体的な視点・スタイルに沿った町内全校一斉の授業の取組を推進。
- ・まとめから授業を考える授業改善



【研究授業後の協議会の様子】



【校内研修での様子（他校の教諭を交えて）】

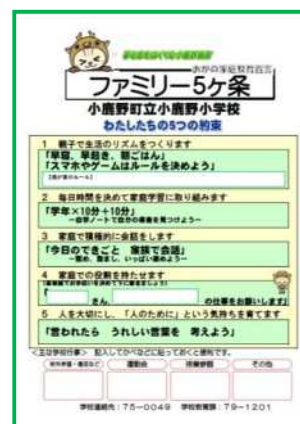
○おがの自学ノートによる学び方の習得

- ・学校での学習状況を家庭と共有するとともに小鹿野町独自の「自学ノート」を活用することにより家庭と連携して主体的な学習態度の育成に努めた。
- ・PTAと連携を図りながら、『親子共学』をキーワードに生活リズムの確立と家庭学習習慣の定着を目指し、学校と家庭が連携し、取り組んだ。



○おがの家庭教育宣言「ファミリー5ヶ条」による学習習慣の確立

- ・PTA 連合会との連携により、子供たちの学力向上のベースとなる生活習慣・学習習慣の定着に向けて、①生活リズム、②家庭学習の充実、③家族の会話、④家庭での役割、⑤人のために行動する気持ちの5点について、保護者の意識啓発を図る。保護者の意識が高まったことにより、「家庭での会話」や「褒める言葉がけ」が増え、家庭学習時間の伸びと学習習慣の定着につながってきている。



○コバトンのびのびシートの活用

- ・町主催の学力向上研修において、県学調およびコバトンのびのびシートの活用方法について町内全教職員で共有し、各学校での積極的な活用につなげていくようにした。
- ・課題のある児童と学習習熟度の高い児童との比較・検討を校内研修等で実施した。
- ・コバトンのびのびシートを三者面談等で活用し、個別支援に役立たせた。

○「小鹿野未来塾」による学習意欲の向上

- ・中学生の土曜補習講座に加え、小学生も対象にした英検・漢検チャレンジ講座、科学不思議講座を開催することにより、学校以外の場における学習に参加した児童生徒の学習意欲の向上につながった。

○その他の学力向上に向けた主な取組

- ・各学校において、児童生徒の学習に対する好意性を向上させるとともに、言語に関する能力を向上させ、学びの価値や意義の認知を図るための工夫や各教師の独自性を発揮した取組を進めた。

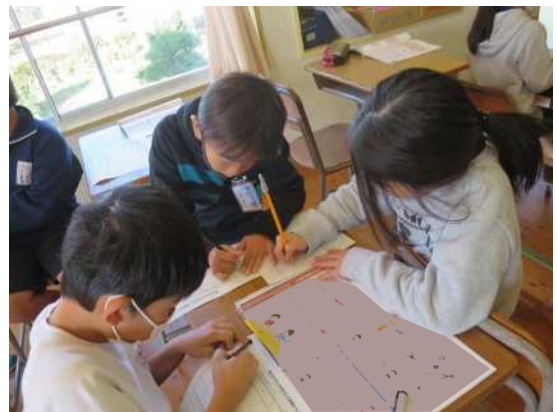
## ②取組の成果と課題

- ・町教委で推進している「小鹿野ベース」による授業改善は、町内小中学校において定着してきており、小中で連携した改善が図られてきている。
- ・若手研修会や要請訪問では、町内小中学校の教員が参加し、各学校の良い取組や研究を共有した。校種や学校を超えた授業改善の研修を実施し、町内の児童の実態や課題を共有し、さらなる改善を図っていく。
- ・子供たちの「主体的な学び」を促進するための工夫や独自性を発揮した取組が各学校で見られるようになったが、教師と子供、子供同士のやりとりを充実させ、思考力・判断力・表現力を育成する指導の展開を図りたい。非認知能力や学習方略についても分析を重ね、児童生徒の学習の基盤作りができるよう研修を充実させていきたい。

## (2) 重点校における主な取組

### ①具体的な取組

- 子供たちに何を学ばせるかを明確にした「小鹿野ベース」による授業改善・研究授業を進める。
- 児童の深い学びにつなげるために「まとめ」「振り返り」を生かした授業構想を行う。
- 次につながるよう、ほめて、励まして、認める言葉がけによる児童と教師の信頼関係の構築を心がける。
- 非認知能力や学習方略の伸長も念頭に入れた学級経営力の向上に努める。
- 教師と児童、児童同士の対話からの学び合いを大切にし、単元全体を見通したわかる授業の実践を積み重ねる。
- 4、5年生で、個に応じた指導が必要な児童のコバトンのびのびシート作成し、全教職員共通理解のもと、個に応じた支援を実施、次年度への引き継ぎを行った。



## ②取組の成果と課題

- ・県学力・学習状況調査の分析を全教職員で実施し、学年ごとの課題を把握・共有した。校内研修で具体的な方策や児童に必要な支援を話し合い、改善に向け取り組んだ。
- ・校内支援体制を見直し、組織的・計画的な研修を実践していく。また、学級経営や普段の授業における指導・助言等の研修を行い、学級経営を基盤とした授業改善を図っていく。学年に応じた学習内容を身に付けるとともに、6年間の系統性をもたせた基礎・基本の定着に向けた指導を徹底していく。



【国語：自分で書いたニュース原稿を読み合う活動】



【外国語活動：自分の好きなフルーツを伝え合う活動】



【国語：順序立てて文を作るための活動】



【道徳：主体的に考え、参加させる形態の工夫】



【外国語活動：ALT に欲しいものを尋ねる活動】



【理科：タブレット端末の活用】



【外国語：オンラインでALTの家族との交流】



【図工：作成した作品への思いを伝え合う活動】